

平成 24 年

水無月講

寿々方江戸がたり

江戸の人情小説には、先祖から伝えられた生活の知恵や信条などが、ほろりと涙をさそう人情の機微を通じて語られています。「美しいことば」、それは心のふる里、日本文化そのものです。寿々方江戸がたりは一人の人間が何人も登場人物を演じ、情景や主人公の心の動きを、小説本の通りに語ってゆきます。芝居ほどリアルではなく、絵が見えるほどに品良く、素踊りを踊る心で語ってまいります。～寿々方江戸がたりHPより～



第十七回 寿々方江戸がたり
江戸の風情と香り 人情の機微を かたりの調べにのせて

藤沢周平 原作
山桜 脚本
寿々方 演出
江戸実話種色

主演 藤沢周平
山桜 寿々方
江戸実話種色

銀座8丁目 博品館劇場
〒104-8122 東京都中央区銀座8-8-11

山桜

野江は夫に死なれ、磯村という家に再嫁した。だが、それは失敗だった。

ある日、薄紅色に咲き初めた山桜の下で、手塚弥一郎と出会う。

彼は、一度出戻った折、いくつか持ち込まれた再婚話の内の一人だった。

藤沢周平の美しい文体が、凛とした氣高さと情を伝える、珠玉の短編です。

江戸実話種色(えどじつわのいろいろ)

著者篠田鈺造は「今より30年前の家庭には、幕末の古老が、どこの家にもごろごろしていた」と「昭和4年6月16日 思い出の日」としてその序文に記している。

そうした江戸生き残りの老人達の体験談を、あらゆる階層に渡り聞き書きをしました。

これは江戸の実話です。

〇〇寿々方プロフィール〇〇

平成8年より江戸時代に材を取った小説の語り、「寿々方江戸がたり」を創始し、平成18年3月より家元となる。人情の機微や人の心の美しさを伝える、こころのかたりべをめざす。

NPO法人江戸連の理事職を務める。



開催日：2012年6月6日(水)

開催場所：銀座・博品館劇場

開演時刻：18時30分(18時開場)

参加申込：江戸連MLにて申し込み

- チケットは事前にお渡しします。会場へ直接お入りください。
- 振込口座がいつもと違います。詳しくはMLをご覧ください。
- 懇親会ですが、全体ではございません。希望者はMLでの案内をご覧ください。